

平成 26 年緑化推進運動功労者
内閣総理大臣表彰受賞者・功績概要

[個人]

加藤 洋	(新潟県佐渡市)
二宮 一雄	(愛媛県西予市)

[団体]

森町花いっぱい運動推進協議会	(北海道茅部郡森町)
利府町みどりの少年団	(宮城県宮城郡利府町)
秋田県七滝土地改良区	(秋田県仙北郡美郷町)
福島県会津若松市立川南小学校	(福島県会津若松市)
三進金属工業株式会社 福島工場	(福島県石川郡平田村)
三郷市立鷹野小学校	(埼玉県三郷市)
光風台 花と緑の会	(千葉県市原市)
高波花と緑の推進協議会	(富山県砺波市)
小浜市	(福井県小浜市)
特定非営利活動法人 徳島共生塾一步会	(徳島県徳島市)

[個人]

かとう ひろし
加藤 洋

新潟県佐渡市

< 功績の概要 >

佐渡島において、昭和54年に中学校教頭として赴任した村内の緑の少年団を指導し始めてから、教職時代、退職後を通じ、島内にある10少年団の育成指導に取り組んできた。現在では「緑のベレー帽のおじさん」として知らない子どもがいないほど親しまれており、島内における児童・生徒の緑化思想の高揚に大きく貢献した。

教職を退いた後も、県緑化推進委員会や緑化関係団体において要職を務め、佐渡地域はもとより、県全体の緑化運動発展に尽力してきた。

また、トキと共生できる自然豊かな環境づくり、島の伝統文化である鬼太鼓を守っていくために原料となるケヤキ林の育成、「美しい花の島・佐渡」の実現を目指すプロジェクトなど、地域に密着した活動でも主導的な役割を果たし、81歳となった現在も先頭に立って緑化運動を牽引している。

[個人]

にのみや かずお
二宮 一雄

愛媛県西予市

< 功績の概要 >

教職員として勤める傍ら、商業的には困難とされていたヒノキの挿し木増殖の研究に取り組み、山土を用いた「施肥さし木育苗法」を開発することにより、ヒノキのクローン苗木を大量生産する技術を確立した。

また、この手法を用いて、同県の自然条件に適し、木材として優れた形質を有するヒノキ品種「かみこう神光2号」「かみこう神光7号」を開発した。このうち「神光2号」は、同県の造林補助事業の対象苗木に認定されている。

このほかにも、大径材を生産するための間伐方法を分かり易くした「樹齢別間伐法」や、除草剤の利用により下刈作業を省力化する手法などの技術を独自で開発した。

同氏は、これらの技術を専門誌、シンポジウムなどで広く公表するとともに、自ら全国各地に赴いて普及に務めるなど、同県だけでなく、我が国全体の林業振興に尽力してきた。

[団 体]

もりまちはな うんどうすいしんきょうぎかい
森町花いっぱい運動推進協議会

所在地 北海道茅部郡森町

代表者 会長 伊藤 励二
いとう れいじ

< 功績の概要 >

平成4年、花いっぱい運動や環境美化を推進するため、町内会など地域の各種団体が集まって発足し、それ以来、町内の国道において沿道を花で彩る活動を継続して行ってきた。活動区間は約4 kmに及び、6月から11月頃までの間、長期間にわたって花が楽しめるよう、数万本もの花苗の植付、水やりや除草等の維持管理に尽力している。こうした努力により、現在では「さわらフラワーロード」として地域の観光名所に定着している。

さらに、平成14年には、国及び町との間で協定を締結し、花づくり活動だけでなく、国道の緑地帯の清掃や除草など、環境・景観の美化にも取り組んでいる。当初、24団体だった参加者は100団体を越え、また、花づくり活動が学校など他の公共施設へも広がるなど、町を挙げた緑化運動へと発展している。

[団 体]

りふちょう しょうねんだん
利府町みどりの少年団

所在地 宮城県宮城郡利府町
代表者 育成会会長 ぶんや ゆきまさ
文屋 以匡

< 功績の概要 >

昭和50年の設立当初から、地元の役場や小学校に募金活動と呼びかけるなど、緑の募金運動を精力的に行ってきたり、地域における緑化意識の高揚に貢献している。結成30周年の平成17年に記念植樹を行った「友愛の森」では、地域住民たちと協働で下草刈りなどの管理作業や成長の観察を行っている。また、定期的に森林に出かけ、自然観察、キャンプなど各種の環境学習活動を行うことにより、緑を大切にすることを育んでいる。

このほか、企業の森づくり活動にボランティアとして積極的に参加したり、活動拠点である「県民の森」において継続的に林内清掃を行い、また、松枯れ被害が増加している特別名勝・松島において松林を再生するプロジェクトを始めるなど、自然環境の保全にも積極的に取り組んでいる。

[団 体]

あきたけん ななたきとちかいらょうく
秋田県七滝土地改良区

所在地 秋田県仙北郡美郷町
代表者 理事長 武藤 威

< 功績の概要 >

約1,600haの水田の用水を確保するため、ため池などの農業用施設に加え、上流域の七滝地区に251haの水源林を保有する、全国でも珍しい土地改良区であり、昭和26年の創立以来、「森を守り水を育む」を合言葉に、保有林において造林や保育管理などの活動を営々と行ってきた。

また、「水環境の学習」のために県内外から訪れた小学生や一般市民に対して、保有水源林を利用した学習会を実施し、水源林においてブナなどの樹木がどのような働きをしているかなど、水と緑の関わりについての理解の深化に貢献している。また、地元の小学校においても学習会を行い、森林の「緑のダム」としての働きを分かり易く説明するなど、「水と緑」の環境教育に取り組んでいる。

このほか、地元自治体の水環境保全条例に基づく事業の一環として、平成20年から七滝地区において行われている、地元住民によるブナの植樹活動にも協力を行っている。

[団 体]

ふくしまけんあいづわかまつしりつかわなみしょうがっこう
福島県会津若松市立川南小学校

所在地 福島県会津若松市
代表者 校長 はしもと 橋本 ちかこ 千賀子

< 功績の概要 >

昭和50年代から30年以上にわたり、「カンナ」の花をシンボルとした緑化活動を継続して実施している。活動は、校内だけでなく、学区内の全21地区において行われており、花で潤う街づくりに大きく貢献している。

さらに、駅や介護施設等へのプランターの設置、原発事故で避難している小学生へのカンナ球根の贈呈、障害者施設とのラベンダーの共同摘み取り作業など、様々な活動に取り組み、緑化思想の普及に大きな成果を挙げている。

また、平成14年からは「緑の少年団」として活動を始め、森林での学習活動の中で森林散策や、枝払いや間伐などの林業体験活動を行っているほか、最近ではユニークな取組として、餌不足でクマが出没したことをきっかけに、餌のドングリがなるクヌギ林づくりも始めている。

[団 体]

み さ と し り つ た か の し ょ う が っ こ う
三郷市立鷹野小学校

所 在 地 埼玉県三郷市
代 表 者 校長 おかど よしひろ 岡戸 義博

< 功績の概要 >

水田を埋め立てて開校し、校内には緑がまったくなかったことから、校庭に小高い丘を築き、児童や父母、教職員などが計画的に植樹を行うことにより、情操を育む緑豊かな環境づくりに取り組んできた。

この「鷹野の森」は、現在では樹木が生い茂り、児童や地域住民に憩いの場や学習の場を提供している。同校の特色は、各教科や総合的学習の中で、この森を題材にした授業を積極的に行っていることであり、これを通して、児童たちに確かな学力を培うだけでなく、自然に親しみ、緑を愛する豊かな心を育てている。

また、校舎の壁面にゴーヤで緑のカーテンを育てたり、種子を家庭に配って緑のカーテンづくりを呼びかけるなど、地域の緑化にも貢献している。

[団 体]

こうふうだい はな みどり かい
光風台 花と緑の会

所在地 千葉県市原市
代表者 会長 河内 昌蔵こうち しょうぞう

< 功績の概要 >

光風台団地の周囲にある斜面など、雑草木が長年繁茂していた約20,000㎡の市有地において、防火・防犯・景観改善のため、植栽、草刈り、清掃など整備活動を行っている。活動は、すべてボランティアで行われ、4月から11月の8ヶ月間の毎月、労力を必要とする作業であるにもかかわらず、13年にわたり継続されてきた。これまでに、サクラ約150本、ツツジ・アジサイなど約2,000本が植栽された。さらに現在は、地区内の湿地となっていた箇所において、ホタルが生育できる環境づくりにも取り組んでいる。

これらの活動は、自治体と協働で行われており、さらに地元の企業、団体、町会なども協力や支援を始めるなど、地域での市民活動を活性化させている。また、地元小学校の総合学習に取り入れられ、児童の環境意識の養成にも役立っている。

[団 体]

たかなみはな みどり すいしんきょうぎかい
高波花と緑の推進協議会

所在地 富山県砺波市
代表者 会長 かしま きよのぶ
鹿嶋 清信

< 功績の概要 >

婦人会や老人クラブなど地区内の各種団体により構成され、設立以来18年間にわたり、地区を挙げて花と緑にあふれる地域づくりに取り組んでいる。地区の公園内にある50㎡の大花壇や、500mに及ぶ沿線区間に花壇・フラワーポットが設置された「花街道」を美しく維持するため、各団体が協力しながら水やり・除草などの管理作業に当たるとともに、花壇のデザインにも苦心を重ねてきた。また、地区内それぞれの集落においても、花壇や花の道づくりが活発に行われている。これらの花壇や花の道は、地域住民の憩いの場を創出しただけでなく、県内外から花の愛好家が視察に訪れるようになっている。

また、花壇や花の道づくりに参加した子供たちに植栽の指導を行ったり、地元の幼稚園に赴いて花づくりを教えるなど、児童・生徒の自然や緑を慈しむ心を養い育てる活動も熱心に行っている。

[団 体]

お ば ま し
小 浜 市

所 在 地 福井県小浜市
代 表 者 市長 まつざき こうじ
松崎 晃治

< 功績の概要 >

平成13年、「食」を通して地域振興を図る条例を全国で初めて制定し、「食」を起点として産業、環境、福祉など各種の施策を展開することにより、魅力ある地域づくりに取り組んでいる。基本施策である6分野の一つには、森、川、海など「食」を育む豊かな自然環境を保全することが位置づけられており、森林や身近な緑を守り育てる活動が行われている。

また、市民を主体とした地域づくりを進めていくため、市内12地区それぞれの振興計画づくりや活動に対して支援を行っている。こうした支援により、漁師と林業者が協働で森林づくりを行ったり、地区住民が遊休農地を活用して季節の花を育て、花の里づくりに取り組むなど、市民の間でも自然環境を守る活動が年々活発になってきている。

